日・瑞比較

大阪大学大学院人間科学研究科 斉藤弥生

スウェーデンが本調査の対象国とされたのは第5回調査(2000年実施)に続き、今回で2回目である。(以下、第5回調査を「2000年調査」とする。)スウェーデンの人口は941万5570人、高齢化率は18.5%である。過去10年間に人口は約51万人増加し、高齢化率は1.5%の増加がみられた(スウェーデン統計局(SCB)統計/2010年11月末現在)。

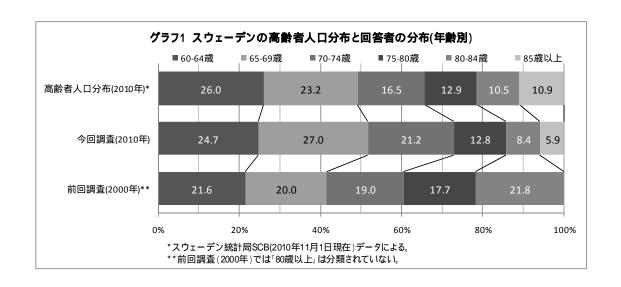
本稿ではスウェーデンと日本の調査結果の単純集計を比較し、上位3位(設問によっては5位)の内容について両国にみられる違いや共通点を概観する。今回調査ではスウェーデンの回答者は60歳代が51.7%をしめ、2000年調査、日本調査に比べて、やや若年層への回答者の偏りがあり、また男性の回答者の比率が高い。「1.回答者の基本属性」にみられるこれらの特徴は、特に「3.健康・福祉」「4.経済生活」「5.就労」の回答に影響を与えていると思われる。データの比較においては、両国の回答者の基本属性についての留意が必要である。

1. 回答者の基本属性

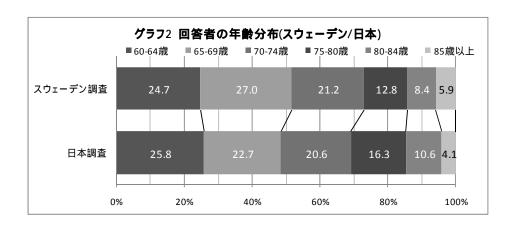
(1)回答者の年齢分布(F2)

表 1 とグラフ 1 は、スウェーデン統計局の人口統計と回答者の年齢分布を示し、比較している。今回調査の回答者はスウェーデンの実際の人口動態にくらべて、65 歳から 74 歳の年齢層の回答者数が多く、80 歳以上(特に85 歳以上)の回答者数が少ない。2000年調査に比べても60歳代の回答者数が51.7%を占めており(2000年調査では41.6%) 80歳以上高齢者の回答者が14.3%と少ない(2000年調査では21.8%)。

表1 スウェーデンの高齢者と回答者の年齢分布							
		SCB人口約	充計(2010)		今回調査(2010)	前回調査(2000)	日本調査(2010)
	総計	男性	女性	60歳以上人口 に対する比率 (%)	60歳以上人口 に対する比率 (%)	60歳以上人口 に対する比率 (%)	60歳以上人口 に対する比率 (%)
60-64歳	614,877	306,544	308,333	26.0	24.7	21.6	25.8
65-69歳	548,775	273,220	275,555	23.2	27.0	20.0	22.7
70-74歳	390,896	187,605	203,291	16.5	21.2	19.0	20.6
75-80歳	304,841	137,358	167,483	12.9	12.8	17.7	16.3
80-84歳	248,327	101,776	146,551	10.5	8.4	21.8	10.6
85歳以上	258,241	86,285	171,956	10.9	5.9		4.1
計	2,365,957	1,092,788	1,273,169	100.0	100.0	100.0	100.0
注)スウェーデ	ン統計局(SCE	3)の人口統語	計は、2010:	年11月1日現在。			



また日本調査の回答者の年齢分布と比較すると、60 歳代の回答者がスウェーデンでは 51.7%、日本では 48.5%である。75 歳以上の回答者がスウェーデンでは 27.1%、日本では 31.0%である。今回の調査では、スウェーデンの回答者には若年高齢者がやや多く、日本の回答者に後期高齢者がやや多いという構造になっている。



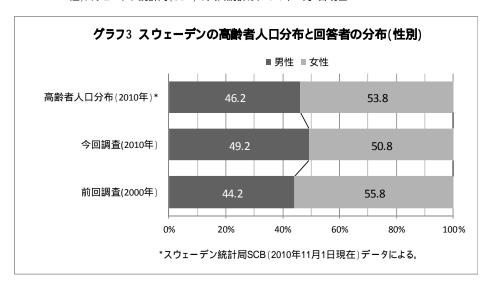
(2)回答者の性別(F1)

また表 2 とグラフ 3 は、回答者の性別分布を、スウェーデン統計局の人口統計と比較したものである。今回調査の回答者は実際の人口統計に比べて男性回答者が 4 ポイント強も多い。2000 年調査に比べても、今回調査では男性回答者の比率が高いことがわかる。

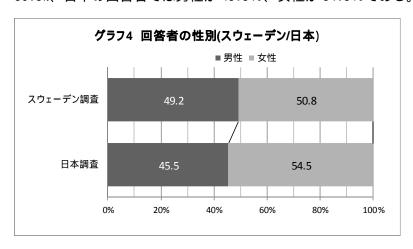
表2 スウェーデンの高齢者と調査対象者の年齢層別・性別分布

	SCB人口統計(2010)		今回調査(2010)		前回調査(2000)	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
60-64歳	49.9	50.1	51.2	48.8	49.1	50.9
65-69歳	49.9	50.2	51.6	48.4	47.5	52.5
70-74歳	48.0	52.0	44.8	55.2	46.3	53.7
75-80歳	45.1	54.9	51.9	48.1	43.5	56.5
80-84歳	41.0	59.0	44.9	55.1	34.4	65.6
85歳以上	33.4	66.6	46.8	53.2	34.4	03.0
計	46.2	53.8	49.2	50.8	44.2	55.8

注)スウェーデン統計局(SCB)の人口統計は、2010年11月1日現在



また日本の調査対象者と比較すると、スウェーデンの回答者では男性は 49.2%、女性が 50.8%、日本の回答者では男性が 45.5%、女性が 54.5%である。



(3)結婚の状況(F3)

「あなたは、現在、結婚していますか。事実婚も含めて下さい」(F3)という問いに対し、 スウェーデンでは 66.9% (2000 年調査では 54.1%)の回答者が「現在、配偶者あるいは パートナーと同居している」と回答しており、今回の調査対象国の中では、日本 (71.7%) に次いで高い数値となっている。

(4)家族との同居の状況(F4)、同居する子供の数(F5)

「あなたは、現在、どなたと一緒に暮らしていますか。養子の方も含めて下さい。(はいくつでも)」という問いに対し、スウェーデンでは「あなたの配偶者あるいはパートナー」とする回答が64.8%で最も多く、「一緒に暮らしている人はいない」とする回答は34.1%であった。またスウェーデンの回答者では、他の選択肢である「既婚の子供」「未婚の子供」

家族との同居の状況(F4)

	(Cの同店の水流(F4)	
順位	スウェーデン	日本
1位	配偶者あるいはパートナー (64.8%)	配偶者あるいはパートナー (70.8%)
2位	一緒に暮らしている人はいな い(34.1%)	未婚の子供(23.2%)
3位	未婚の子供(1.9%)	孫(17.7%)
4位	その他の家族・親族(0.4%)	既婚の子供(男)(15.0%)
5位	既婚の子供(男)(0.4%)	子供の配偶者あるいはパート ナー(12.8%)
6位	兄弟·姉妹(0.2%)	一緒に暮らしている人はいな い(12.8%)

「孫」「兄弟・姉妹」等との同居 はほとんどみられない。「同居し ている子供の数 (F5)をみても、 「いない」という回答者は 97.6%で、スウェーデンが他国 に比べて最も高い。

日本の回答者の同居の状況は、

「配偶者あるいはパートナー」(70.8%)が最も多いが、「一緒に暮らしている人はいない」 とする単身の回答者は12.8%でスウェーデンに比べて少ない。

(5)学校教育を受けた年数(F6)

学校教育を受けた年数(F6)では、スウェーデンは「17年以上」という回答が13.9%で最も高い数字となっており、他国と比較すると、回答者はやや学歴が高い傾向にあるといえる。日本の回答者では「12年」(35.1%)が最も多かった。受けた教育の平均年数では、スウェーデンの回答者が11.5年、日本の回答者は11.3年であった。

(6)収入の伴う仕事の経験の有無(Q23)、一番長〈経験した仕事の内容(Q24)

「あなたは、これまでに収入を伴う仕事をしたことがありますか。(は 1 つだけ)」(Q23) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「ある」と回答した人は 89.8%で、男性 90.2%、 女性 89.3%であった。(日本では「ある」と回答した人は 94.1%で、男性 100.0%、女性 89.1%。)

一番長〈経験した仕事の内容(Q24)		
順位	スウェーデン	日本
	常雇(フルタイム)の事務系·技 術系勤め人(48.3%)	常雇(フルタイム)の事務系·技 術系勤め人(29.7%)
2位	常雇(フルタイム)の労務系勤め 人(21.4%)	常雇(フルタイム)の労務系勤め 人(21.1%)
3位	会社または団体の役員(12.7%)	自営商工サービス業(17.9%)

(「仕事をしたことがある」と 回答した人へ)「あなたが、これ までに一番長くした仕事はどの ような仕事でしたか。(は1つだけ)」(Q24) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「常雇(フルタイム)の事務系・技術系勤め人」という回答が48.3%で最も多く、「常雇(フルタイム)の労務系勤め人」(21.4%)、「会社又は団体の役員」(12.7%)が続く。日本の回答者では上位2位はスウェーデンと同じ内容であるが、フルタイムの勤め人が約7割を占めるスウェーデンの回答者に比べ、仕事の内容や雇用形態が多岐にわたる。

2000 年調査におけるスウェーデンの回答者と比べ、今回調査の回答者では「常雇(フルタイム)の事務系・技術系勤め人」(34.5% 48.3%)が13.8 ポイントも増え、「常雇(フルタイム)の労務系勤め人」(32.9% 21.4%)は11.5 ポイント、「常雇(パートタイム)」(13.9% 7.7%)は6.2 ポイント減少している。今回調査の回答者は、現役時代にホワイトカラー層であった人が多い。

(7)収入の伴う仕事の有無 (Q25)

「現在、収入の伴う仕事をしていますか。(は1つだけ)」(Q25) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「ある」と回答した人が34.9%(男性37.8%、女性32.0%)であった。2000年調査の回答者では、「ある」と回答した人が15.1%(男性17.5%、女性13.2%)であり、2000年調査と比較すると今回調査では収入を伴う仕事をしている回答者が倍増している。日本では「ある」と回答した人は38.3%(男性44.2%、女性32.7%)であった。

2. 家庭生活の状況

(1)家事の分担(Q1a)

「お宅では、炊事、洗濯、掃除などの家事をどなたがなさっていますか。別に暮らしているご家族の方が、ときどき訪ねてきてやってくれる場合も含みます。(はいくつでも)」(Q1a)という問いに対し、スウェーデンの回答者では「主に自分がしている」という回答が78.9%で最も多く、「主に配偶者あるいはパートナー」(50.0%)、「主にホームヘルパー等

家事	∮の従事状況(Q1a)	
順位	スウェーデン	日本
1位	主に自分がしている(78.9%)	主に自分がしている(70.0%)
2位	主に配偶者あるいはパートナーがしている(50.0%)	主に配偶者あるいはパートナー がしている(45.0%)
3位	主にホームヘルパー等の家事援助を職業としている人にやってもらっている(3.8%)	主に同居している子供や他の家 族・親族(20.9%)
家事	の従事状況(Q1a) 男性の回答	
順位	スウェーデン	日本
1位	主に配偶者あるいはパートナーがしている(71.1%)	主に配偶者あるいはパートナー がしている(79.4%)
2位	主に自分がしている(64.2%)	主に自分がしている(41.6%)

の家事援助を職業とする人にやってもらっている」(3.8%)という回答が続く。

日本では「主に同居している 子供や他の家族・親族」とする 回答が 20.9%で多く、スウェー デンではこのケースは 0.7%でほとんど存在していない。その代わり、スウェーデンの 3 位には「主にホームヘルパー等」(3.8%)という回答がみられる。

両国において男性回答者では「主に配偶者かパートナー」とする回答が最も多いが(スウェーデン 71.1%、日本 79.4%)、「主に自分」という回答はスウェーデンの男性回答者が 64.2%、日本の男性回答者が 41.6%であり、日本の男性回答者では半数に満たない。

(2) 主な家事の従事者(Q1b)

「主に家事をおこなっているのはどなたですか。主な人 1 人のみをお答えください」 (Q1b) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「主に自分がしている」という回答 が 61.0%で最も多く、「主に配偶者あるいはパートナー」(31.9%)、「主にホームヘルパー等 の家事援助を職業とする人にやってもらっている」(1.4%)という回答が続く。日本の回答 では「主に自分がしている」(53.3%)、「主に配偶者あるいはパートナーがしている」(35.3%)、「主に同居している子供や他の家族・親族」(10.1%)の順であった。

(3)夫婦の時間(Q2)

「あなたは、夫婦一緒に過ごす時間を持つようにしている方ですか。それともそれぞれが自分の時間を持てるようにしている方ですか。(は1つだけ)」(Q2)という問いに対し、スウェーデンの回答者では「夫婦一緒の時間を持つようにしている」という回答が 48.4%で最も多く、「どちらの時間も持つようにしている」(44.3%)、「夫婦それぞれが自分のため

夫婦の時間(Q2)

順位	スウェーデン	日本
	夫婦一緒に過ごす時間を持つ ようにしている(48.4%)	夫婦一緒に過ごす時間を持つ ようにしている(57.4%)
	どちらの時間も持つようにして いる(44.3%)	どちらの時間も持つようにして いる(21.7%)
		夫婦それぞれが自分のための 時間を持つようにしている (20.3%)

の時間を持つようにしている」] | (6.8%)という回答が続く。

日本ではスウェーデンと順位は 一緒だが、「夫婦それぞれが自分の 時間を持つようにしている」とい

う回答が、スウェーデンでは6.8%であるのに対し、日本では20.3%であった。

(4)家族の生活に果たす高齢者の役割(Q3)

「あなたは、ご家族や親族の方々のなかでどのような役割を果たしていますか。次の中から、いくつでもあげて下さい。(はいくつでも)」(Q3)という問いに対し、スウェーデンの回答者では「家事を担っている」という回答が65.2%で最も多く、「家計の支え手(稼

ぎ手)である」(26.2%)、「家族・親族の相談相手になっている」(20.6%)とする回答が続く。 日本の回答では、「家事を担っている」(50.2%)、「家族・親族の相談相手になっている」 (32.9%)、「家計の支え手(稼ぎ手)である」(30.6%)の順であった。

(5)別居している子供との接触頻度(Q4)

別居している子供との接触頻度(Q4)		
順位	スウェーデン	日本
1位	週に1回以上(49.1%)	週に1回以上(31.4%)
2位	ほとんど毎日(31.3%)	月に1~2回(29.9%)
3位	月に1~2回(13.8%)	ほとんど毎日(20.6%)

「別居しているお子さん方とは、どのくらいの頻度で会ったり、電話等で連絡をとったりしていますか。別居しているお子

さんが2人以上いる場合は、最もよく会ったり、連絡をとったりしているお子さんについてお答えください。(は1つだけ)」(Q4) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「週に1回以上」とする回答が49.1%で最も多く、「ほとんど毎日」(31.1%)、「月に1~2回」(13.8%)とする回答が続く。日本の回答では「週1回以上」(31.4%)、「月に1~2回」(29.9%)、「ほとんど毎日」(20.6%)の順であった。

(6)子供や孫とのつきあい方(Q5)

「老後における子供や孫とのつきあい方について、あなたはどのようにお考えですか。 あなたのお考えに近いものを1つだけあげて下さい。(は1つだけ)」(Q5) という問いに 対し、スウェーデンの回答者では「子供や孫とは、ときどき会って食事や会話をするのが よい」(79.7%)、「子供や孫とは、たまに会話をする程度でよい」(13.2%)とする回答が続く。

子供や孫とのつきあい方(Q5)		
順位	スウェーデン	日本
1位	子供や孫とは、ときどき会って 食事や会話をするのがよい (79.7%)	子供や孫とは、ときどき会って 食事や会話をするのがよい (46.8%)
2位	子供や孫とは、たまに会話をす る程度でよい(13.2%)	子供や孫とは、いつも一緒に生活できるのがよい(33.1%)
3位	子供や孫とは、いつも一緒に生活できるのがよい(3.7%)	子供や孫とは、たまに会話をする程度でよい(11.2%)

日本では「子供と孫とは、いつも一緒に生活できるのがよい」という回答が 33.1%(2位)と多く、スウェーデンではわずかに3.7%(3位)である。

(7)心の支えとなっている人(Q6)

「あなたにとって心の支えとなっている方はどなたですか。(はいくつでも)」(Q6) という問いに対し、スウェーデンの回答者は「配偶者あるいはパートナー」とする回答が70.9%で最も多く、「子供(養子を含む)」(59.8%)、「孫」(25.4%)とする回答が続く。日本

の回答では「配偶者あるいはパートナー」(65.3%)、「子供(養子を含む)」(57.4%)、「孫」(17.9%)の順であった。

3.健康·福祉

(1)現在の健康状況(Q7)

「あなたは、現在、健康ですか」(Q7)という問いに対し、スウェーデンの回答者では 68.5% (日本 65.4%)が「健康である」と回答し、調査対象国の中で最も高い数字を示している。 2000 年調査の結果に比べて 8.1 ポイントの増加がみられるが、これは今回の調査対象者が前回より年齢層が若い回答者が多いことが要因として働いているように思われる。

(2)日常生活における援助の必要度(Q8)

「あなたは日常生活を送る上で、誰かの介助や介護が必要ですか」(Q8)にという問いに対し、スウェーデンの回答者では87.0%が「まったく不自由なく過ごせる」と回答しており、日本の回答者89.8%に次いで高い数字になっている。2000年調査のスウェーデンの回答83.3%に比べ、3.7ポイントの増加がみられるが、これも今回の回答者の年齢層が若いという要因が働いていると思われる。

(3)健康について心がけていること(Q9)

「あなたは、日頃ご自分の健康についてどんなことを心がけていますか。(はいくつでも)」(Q9)という問いに対し、スウェーデンの回答者では「散歩や運動をする」と回答した人は77.9%で最も多く、「栄養のバランスのとれた食事をする」(73.5%)「規則正しい生活を送る」(62.6%)が続く。2000年調査の順位も今回と同じであった。

健康	をについて心がけていること(Q9)	
順位	スウェーデン	日本
1位	散歩や運動をする(77.9%)	休養や睡眠を十分とる(62.9%)
2位	栄養のバランスのとれた食事を する(73.5%)	規則正しい生活をする(58.4%)
3位	規則正しい生活をする(62.6%)	栄養のバランスのとれた食事を する(57.2%)

「散歩や運動をする」は、韓国以外の調査対象国では上位に入らず、日本の回答では47.9%であった。スウェーデンでは、現役時代から散歩やスポーツジ

ム等に通うなど体を動かす習慣があり、高齢期になっても続くものと思われる。

(4)日頃の食事の状況(Q10)

「あなたは、日頃ご自分の食事に関してどのようなことをしていますか。(はいくつでも)(Q10)という問いに対し、スウェーデンの回答者では「手作りの料理を増やす」と回答した人が74.5%で最も多く、「栄養のバランスに配慮し、様々な食品をとる」(74.3%)、「朝昼晩1日3回、規則正しく食べる」(65.5%)が続く。この質問項目は2000年調査では採用されていない。他の調査対象国に比べて「塩分をとりすぎない」(29.6%)、「脂肪を取りすぎない」(37.5%)という回答は少なく、「食品の安全性(無農薬等)に配慮する」(47.2%)という回答が多い。日本の回答では「朝昼晩1日3回、規則正しく食べる」(82.2%)、「塩分をとりすぎない」(50.5%)、「食べ過ぎない」(46.3%)の順であった。

(5)医療サービスの利用状況(Q11)

医療	サービスの利用状況(Q11)	
順位	スウェーデン	日本
1位	年に数回(71.3%)	月に1回ぐらい(39.3%)
2位	利用していない(14.0%)	利用していない(20.5%)
3位	月に1回ぐらい(8.5%)	年に数回(17.8%)

「あなたは、病院や診療所などの医療施設へ通院したり、往診に来てもらうなど、「医療サービス」を日頃どのくらい利用し

ますか。(は1つだけ)」(Q11) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「年に数回」と回答した人が71.3%で最も多く、「利用していない」(14.0%)、「月に1回くらい」(8.5%)が続く。スウェーデンの回答者では「年に数回」「利用していない」を合計すると85.3%であり、日本38.3%、アメリカ75.4%、韓国40.9%、ドイツ65.2%と比較しても高く、他の調査対象国に比べて、医療サービスの利用が少ない。日本の回答者では、「ほぼ毎日」から「月に1回くらい」までの回答をすべて合わせると61.6%(スウェーデンでは14.6%)になっており、日本の回答者では医療サービスの利用が多い。

日本の医療保険制度では保険証を持参すれば、原則、どの病院でも受診できる。しかしスウェーデンでは、医療機関の機能分担が明確で、まずは地域ごとに設置されている地区診療所(vårdcentral)で受診し、深刻な状況と判断された場合のみ、専門医療を備える総合病院で受診する。そのためか、日本のように体調が悪いとすぐに病院に行くという習慣がスウェーデンにはあまりない。受診習慣が調査結果に反映されているのかも知れない。

(6)医療サービスに対する満足度(Q12)

「あなたは、主に利用している「医療サービス」についてどのくらい満足していますか。

(は1つだけ)」(Q12) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「満足している」 と回答した人は64.6%で最も多く、次に「まあ満足している」(29.0%)が続く。日本の回答 では、「まあ満足している」(54.5%)、「満足している」(38.2%)、「やや不満である」(6.3%) の順となっている。

(7)医療サービスに対する不満点·問題点(Q13)

「あなたは、主に利用している「医療サービス」について、どのような不満や問題をお感じですか。(はいくつでも)」(Q13) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「特にない」(68.9%)が最も多く、「診察の時に待たされる」(12.4%)、「手術の日などを待たさ

医療	医療サービスに対する不満点・問題点(Q13)		
順位	スウェーデン	日本	
1位	特にない(68.9%)	特にない(62.7%)	
2位	診察の時に待たされる(12.4%)	診察の時に待たされる(18.1%)	
3位	手術などの日を待たされる (10.3%)	費用が高い(15.4%)	

れる」(10.3%)と続く。全体的に みて、スウェーデンの回答では 医療サービスに対する不満は少 ない。日本の回答では「特にな

い」(62.7%)、「診察の時に待たされる」(18.1%)、「費用が高い」(15.4%)の順であった。 スウェーデンを除く全調査対象国において、「費用が高い」とする不満が上位に位置して

パフェーテンを除く主調直対家国にのいて、「資用が高い」と9 る不満が工位に位置している(アメリカ 32.6%、韓国 18.6%、ドイツ 16.5%、日本 15.4%)が、スウェーデンの回答者で「費用が高い」ことを不満点と回答した人はわずかに 2.2%にとどまっている。スウェーデンの医療制度には、患者負担についての限度額保証制度があり、患者が 1 年間に支払う自己負担額の上限は 900 クローナと設定されている。

(8)通所·在宅の福祉サービスの利用状況(Q14)

「あなたは、ふだんどのような「通所・在宅の福祉サービス」を主に利用していますか」

通所·在宅の福祉サービスの利用状況(Q14)		
順位	スウェーデン	日本
1位	利用していない(92.4%)	利用していない(95.9%)
2位	ホームヘルプサービス(3.6%)	デイサービス(2.9%)
3位	その他(3.3%)	ホームヘルプサービス(0.8%)

(Q14) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「利用していない」(92.4%)が最も多く、

今回の回答者には福祉サービス利用者は1割もいないことがわかる。80歳以上の回答者では、「利用していない」人はスウェーデン14.3%、日本14.7%で、スウェーデンの福祉サービス利用者数が日本より若干多いといえる。またスウェーデンではホームヘルプサービス、日本ではデイサービスの利用が他のサービスより相対的に多いという点も特徴である。

(9)通所·在宅の福祉サービスの利用頻度(Q15)

通所・在宅の福祉サービスを利用している方を対象とした「あなたは、その「通所・在宅の福祉サービス」をどのくらいの頻度で利用していますか。(は1つだけ)」(Q15)という問いに対し、スウェーデンの回答者では「ほぼ毎日」という回答が28.8%で最も多く、「年に数回」(25.0%)、「月に2、3回くらい」(13.8%)とする回答が続く。日本では「週に2、3回くらい」(50.0%)、「週に1回くらい」(22.9%)、「週に4、5回くらい」(14.6%)の順で、「ほぼ毎日」は4.2%にとどまっている。

(10)介護が必要になった場合に介護を期待する人(Q16)

「もしあなたの身体が虚弱になり、在宅で生活する上で誰からの介護が必要になった場合に、主にどのような方に介護をしてもらうことになると思いますか。現在、介護を受け

介護	介護が必要になった場合に介護を期待する人(Q15)		
順位	スウェーデン	日本	
1位	配偶者あるいはパートナー	配偶者あるいはパートナー	
1 137	(58.1%)	(46.2%)	
2位	ホームヘルパー等の介護を職	ホームヘルパー等の介護を職	
2111	業とする人(23.1%)	業とする人(15.7%)	
3位	娘(養女を含む)(6.2%)	娘(養女を含む)(13.0%)	
	(10位)子供の配偶者あるい	(5位)子供の配偶者あるいは	
	はパートナー(0.3%)	パートナー(5.4%)	

ていらっしゃる方は、どなたに 介護してもらっているかをお答 えください。(は1つだけ)」 (Q16) という問いに対し、スウ ェーデンの回答者では「配偶者

あるいはパートナー」という回答が 58.1%で最も多く、「ホームヘルパー等の介護を職業とする人」(23.1%)、「娘 (養女を含む)」(6.2%)とする回答が続く。2000 年調査でも順位は同じであった。

他の調査対象国と比較しても、「ホームヘルパー等の介護を職業とする人」とする回答は、 日本 15.7%、アメリカ 12.4%、韓国 7.4%、ドイツ 16.5%であり、スウェーデンの 23.1%は高い数字である。またスウェーデンでは「子供の配偶者あるいはパートナー」(0.3%)に期待する回答がほとんどない点が特徴的である。

男女別でみると、スウェーデンの男性では「配偶者あるいはパートナー」(72.4%)「ホームへルパー等の介護を職業とする人」(14.6%)、「息子(養子を含む)」(3.1%)で、女性では「配偶者あるいはパートナー」(44.1%)、「ホームヘルパー等の介護を職業とする人」(31.4%)、「娘(養女を含む)」(9.9%)の順になっている。男女で期待する人の順番はほぼ同じであるが、「配偶者あるいはパートナー」に期待する回答が男性に多く、「ホームヘルパー等の介護を職業とする人」に期待する回答が女性に多い。日本も同じ傾向である。

(11)医療や福祉サービスに不満がある場合の対応(Q17)

「もし、利用している医療や福祉サービスに不満がある場合、あなたはどのような対応をすると思いますか。現在、医療や福祉サービスを利用していらっしゃらない方は、自分が利用した場合のことを想像してお答えください。(はいくつでも)」(Q17)という問いに対し、スウェーデンの回答者では「利用している医療や福祉サービスを提供している機関に直接苦情を申し立てる」とする回答が66.6%で最も多く、「利用している医療や福祉サービスを提供している機関をかえる」(41.6%)、「苦情処理するための公的機関(オンブズマン制度など)に申し立てる」(14.5%)とする回答が続く。2000年調査では、スウェーデンの回答は「利用している医療や福祉サービスを提供している機関に直接苦情を申し立てる」(53.9%)、「利用している医療や福祉サービスを提供している機関をかえる」(23.6%)、「家族・友人に相談する」(19.2%)と続いた。

医療	医療や福祉サービスに不満がある場合の対応(Q17)		
順位	スウェーデン	日本	
1位	利用している医療や福祉サービスを提供している機関に直接苦情を申し立てる(66.6%)	家族・友人に相談する(36.3%)	
2位	利用している医療や福祉サービスを提供している機関をかえる(41.6%)	利用している医療や福祉サービスを提供している機関をかえる (26.8%)	
3位	苦情処理するための公的機関 (オンブズマン制度など)に申し 立てる(14.5%)	不満があっても我慢する(11.9%)	

スウェーデンの回答では、 2000 年調査に比べ、「不満があっても我慢する」が 17.2%から 9.2%に減少し、「利用している医療や福祉サービスを提供している機関をかえる」が 23.6%から

41.6%に増加した。2000年に比べ、特に都市部で民間事業者の比率が高まり、事業者の多元化が進行したことが影響しているものと思われる。バウチャー制度を導入する等、利用者による事業者選択の機会を増やす取り組みが増えてきており、サービスに対する不満の意思表示として事業者変更が容易になってきたことも要因として考えられる。

日本の回答では、「家族・友人に相談する」(36.3%)、「利用している医療や福祉サービスを提供している機関をかえる」(26.8%)、「不満があっても我慢する」(11.9%)の順である。 苦情表明を直接行うスウェーデンの回答者と、自分の中で解決しようとする日本の回答者の間での違いがみられる。

(12)高齢者の尊厳が傷つけられることの有無(Q18)

「あなたは、高齢者であることを理由として、ほかの人々から不愉快な取り扱いや不利益を受けたような経験がありますか。(は1つだけ)」(Q18) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「まったくない」とする回答が 86.3%で最も多く、続いて「あまりな

い」(8.3%)という回答であった。2000 年調査では、「まったくない」とする回答はわずかに5.5%であり、今回調査では86.3%にまで80.8 ポイントも大幅に増加した結果であった。

この理由は 2000 年調査と今回調査の設問の違いによると思われる。 2000 年調査での設問は「あなたは、日頃、生活している中で、高齢者がほかの人々から自己の尊厳や自尊心を傷つけられていると思いますか」というもので、高齢者全般に対する尊厳についてたずねている。これに対し、今回調査では「(前略)経験がありますか」と回答者自身の経験をたずねている。実際の経験を尋ねたため、設問の解釈が異なっているとも考えられる。

スウェーデンでは介護付き住宅で発生した高齢者虐待事件(2007年)がきっかけで、国会で高齢者虐待防止を巡る議論が起こり、高齢者虐待通報義務が法制化(通称:サーラ条項)された。その後も社会庁(日本の厚生労働省にあたる)は毎年、高齢者虐待の通報件数を公表するなどの新たな取り組みが始まり、その影響もあり、高齢者の尊厳に対する意識が高揚していた時期だったことも一つの要因として考えられる。

4. 経済生活

(1)生活の収入源(Q19a)

「あなたは、現在、ご自分の生活費を何でまかなっていますか。あてはまるものすべてあげてください。(はいくつでも)」(Q19a) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「公的な年金(国民年金、厚生年金など)」とする回答が81.5%で最も多く、「生活保護」(38.1%)、「私的な年金(企業年金、個人年金など)」(37.3%)とする回答が続く。日本の回

生活の収入源(Q19a)

	土/100 /X/ (M/(& 100)		
順位	スウェーデン	日本	
1111/	公的な年金(国民年金、厚生 年金等)(81.5%)	公的な年金(国民年金、厚生 年金等)(85.9%)	
2位	生活保護 (38.1%)	仕事による収入(34.9%)	
3位	私的な年金(企業年金、個人年 金等)(37.3%)	預貯金などの引き出し(17.2%)	

スウェーデン語の調査票では「生活保護」を「tilläggspension(付加年金)」としており、公的扶助を指していない。

答では、「公的な年金」(85.9%)、

「仕事による収入」(34.9%)、「預 貯金などの引き出し」(17.2%) の順である。

他の対象国と比較すると、ス ウェーデンでは「生活保護」と

する回答の多さが目立つが、これは訳語の影響が推測される。スウェーデン語の調査票では「付加年金」(tilläggspension)としているが、「付加年金」とは固有名詞としては、スウェーデンの旧年金制度における所得比例部分のATP年金(ATP:Allmän tilläggspension)を指す。また ATP 年金の受給額が低い場合に給付される補足年金(pensionstillskott)等も "年金に付加された給付"と呼ばれることもある。おそらくここでは後者の意味だと思わ

れるが、回答者はどう解釈しているかは判断できない。また使用されている訳語は、日本語の「生活保護」とは性質が異なる。次回調査では訳語の検討が必要と思われる。

(2)生活の主な収入源(Q19b)

((Q19a)で生活の収入源を2つ以上あげた方に)「そのうち、あなたの主な収入源はどれですか。1つだけあげて下さい。(は1つだけ)」(Q19b)という問いに対し、スウェーデンの回答者では「公的な年金(国民年金、厚生年金など)」とする回答が69.5%で最も多く、「仕事による収入」(18.7%)、「私的な年金(企業年金、個人年金など)」(4.3%)と続く。他の調査対象国に比べて、スウェーデンでは「子供などからの援助」への回答が存在しなかった(日本は1.9%)。日本では「公的な年金」(66.3%)、「仕事による収入」(24.3%)、「財産からの収入」(2.0%)の順であった。

(3)日々の暮らしに困ることがあるか(Q20)

「あなたは、経済的な意味で、日々の暮らしに困ることがありますか。(は 1 つだけ)」 (Q20) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「困っていない」とする回答が 58.4% で最も多く、「あまり困っていない」(30.5%)、「少し困っている」(8.6%)が続く。日本は、「困っていない」(55.5%)、「あまり困っていない」(27.3%)、「少し困っている」(12.6%) の順であった。「困っている」「少し困っている」を合わせた回答が、日本では 17.2%であるが、スウェーデンでは 11.1%で、調査対象国の中では最も低い数字を示している。

(4)老後の生活費に対する備え(Q21)

「あなた(あなたたちご夫婦)は、50歳代までに、老後の経済生活に備えて特に何かしていましたか。(はいくつでも)」(Q21)という問いに対し、スウェーデンの回答者では「個人年金への加入」とする回答が47.9%と最も多く、「特に何もしていない」(36.9%)、「債券・株式の保有、投資信託」(28.4%)とする回答が続く。日本では「預貯金」(51.5%)、「特に何もしていない」(39.0%)、「個人年金への加入」(18.2%)の順であった。

老後の生活費に対する備え(Q21)

順位	スウェーデン	日本	
1位	個人年金への加入(47.9%)	預貯金(51.5%)	
2位	特になにもしていない(36.9%)	特になにもしていない(39.0%)	
3位	債券・株式の保有、投資信託 (28.4%)	個人年金への加入(18.2%)	

2000 年調査では、スウェーデンの回答は「特に何もしていない」(53.1%)、「預貯金」(28.5%)、「個人年金への加入」(18.1%)

という順になっている。今回の調査では、「特になにもしていない」と回答する人が大幅に減少し(53.1% 36.9%)、「個人年金への加入」と回答する人が大幅に増加した(18.1% 47.9%)。

(5)老後の備えとしての現在の貯蓄や資産の充足度(Q22)

「現在の貯蓄や資産は、今後、あなた(あなたたちご夫婦)の老後の備えとして十分だと思いますか。(は1つだけ)」(Q22)という問いに対し、スウェーデンの回答者では「まあ十分だと思う」とする回答が45.8%で最も多く、「十分だと思う」(26.5%)、「やや足りないと思う」(10.4%)とする回答が続く。日本では「やや足りないと思う」(34.7%)、「まあ十分だと思う」(28.5%)、「まったく足りないと思う」(18.3%)の順であった。

老後	老後の備えとしての現在の貯蓄や資産の充足度(Q22)		
順位	スウェーデン	日本	
1位	まあ十分だと思う(45.8%)	やや足りないと思う(34.7%)	
2位	十分だと思う(26.5%)	まあ十分だと思う(28.5%)	
3位	やや足りないと思う(10.4%)	まった〈足りないと思う(18.3%)	
4位	社会保障で基本的な生活は満たされているので、資産保有の必要がない(8.6%)	十分だと思う(13.0%)	
5位	まった〈足りないと思う(2.8%)	社会保障で基本的な生活は満たされているので、資産保有の必要がない(1.6%)	

他の調査対象国との比較では、スウェーデンでは「まったく足りない」とする回答が 2.8%で極めて低い点が特徴である。「やや足りない」「まったく足りない」を合わせた回答数でも、スウェ

ーデンは 13.2%と最も少なく、スウェーデンの回答者では老後の備えが足りないと感じている人は1割程度であった(韓国 63.7%、日本 53.0%、アメリカ 34.5%、ドイツ 22.6%)。

5. 就労

(1)今後の就労意欲(Q26)

「あなたは今後も収入を伴う仕事を続けたいと思いますか。それとも辞めたいと思いますか。(は1つだけ)」(Q26) という問いに対し、スウェーデンの回答者では継続希望者は70.0%、日本の回答者では87.3%であった。

(2)就労の継続を希望する理由(Q27)

「あなたが収入の伴う仕事を続けたいと思うのは主にどのような理由からですか。(は

1 つだけ)」(Q27) という問いに対し、スウェーデンの回答者では、仕事そのものが面白いから、

自分の活力になるから」という回答が51.5%で最も多く、次に「収入がほしいから」(28.6%)、「働くのは体によいから、老化を防ぐから」(13.0%)が続く。

日本では「収入がほしいから」(43.8%)、「働くのは体によいから」(25.8%)、「仕事その ものが面白いから、自分の活力になるから」(20.7%)の順で、「仕事そのものが面白いから、 自分の活力になるから」という回答は 20.7%でスウェーデンの回答者の半分に満たない。

(3)実際の退職年齢(Q28)

「あなたが収入を伴う仕事を辞めたのは何歳のときですか。(は 1 つだけ)」(Q28) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「60 歳代前半」という回答が 43.7% で最も多

実際の退職年齢(Q28)

順位	スウェーデン	日本
1位	,	60歳代前半(60-64歳)
	(43.7%) 60歳代後半(65-70歳)	(34.5%) 6 0 歳代後半(6 5 - 7 0 歳)
2位	(43.0%)	(20.9%)
3位	5 0 歳代(10.2%)	5 0 歳代(20.0%)

く、次に「60歳代後半」(43.0%)、

「50 歳代」(10.2%)という回答が続く。日本の回答者の退職年齢は「60歳代前半」(34.5%)、「60歳代後半」(20.9%)、「50歳代」(20.0%)

と続く。「70歳以降」という回答では、スウェーデンでは1.9%であったのに対し、日本では12.8%であった。

(4)就労希望の有無(Q29)

「今後、あなたは、収入の伴う仕事をしたいと思いますか。(は1つだけ)」(Q29) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「新規の就労希望なし」とする回答は81.6%、「新規の就労希望あり」とする回答が18.4%であった。日本では「新規の就労希望なし」(82.9%)、「新規の就労希望あり」(16.2%)であった。

(5)就労を希望する理由(Q30)

「あなたが収入の伴う仕事をしたいと思われるのは主にどのような理由からですか。 1 つだけあげて下さい。(は1つだけ)」(Q30) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「仕事そのものが面白いから、自分の活力になるから」という回答が 48.9%で最も多く、次に「収入がほしいから」(23.3%)、「働くのは体によいから、老化を防ぐから」(14.3%)とする回答が続く。日本では「収入がほしいから」(53.3%)、「働くのは体によいから、老化を防ぐから」(13.1%)、「仕事を通じて友人や、仲間を得ることができるから」(13.1%)

の順であった。

(6)就労した〈ない理由(Q31)

「あなたが収入の伴う仕事を辞めたい、あるいは仕事をしたくないと思われるのは主に どのような理由からですか。1つだけあげて下さい。(は1つだけ)」(Q31)という問いに 対し、スウェーデンの回答者では「仕事以外にしたい事があるから」という回答が 56.8%

就労	けしたくない理由(Q31)	
順位	スウェーデン	日本
1位	仕事以外にしたい事があるから (56.8%)	健康上の理由で働けないから (54.2%)
2位	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,	自分に適した仕事がないから (19.3%)
3位	その他(8.6%)	仕事以外にしたい事があるから (16.1%)

で最も多く、次に「健康上の理 由で働けないから」(28.4%)、「自 分に適した仕事がないから」 (6.2%)とする回答が続く。

日本の回答は、「健康上の理由

で働けないから」(54.2%)、「自分に適した仕事がないから」(19.3%)、「仕事以外にしたい事があるから」(16.1%)の順であった。

(7)望ましい退職年齢(Q32)

「普通、収入の伴う仕事を離れるのは何歳ぐらいがよいと思いますか。「男性の場合」と「女性の場合」それぞれについて1つずつあげて下さい。(はそれぞれ1つずつ)」(Q32) という問いに対し、スウェーデンの回答者では(男女平均)「65歳ぐらい」が47.9%で最も多く、次に「60歳くらい」(30.2%)、「55歳くらい」(2.2%)が続く。

望ま	しい退職年齢(Q32)	
順位	スウェーデン	日本
1位	65歳ぐらい(47.9%)	65歳ぐらい(38.3%)
2位	60歳ぐらい(30.2%)	70歳ぐらい(26.2%)
3位	その他(17.3%)	60歳ぐらい(17.5%)

日本の回答では、「65 歳ぐらい」(38.3%)、「70 歳ぐらい」(26.2%)、「60 歳ぐらい」(17.5%)

6. 住宅·生活環境

(1)住宅の種類(Q33)

「あなたがお住まいの住宅は、次のどれにあたりますか。(は1つだけ)」という問いに対し、スウェーデンの回答者では「あなた又はあなたの家族が所有する一戸建て住宅」とする回答が 50.5%で最も多く、次に「あなた又はあなたの家族が所有する一般の集合住宅」(20.9%)、「個人や民間企業が所有する賃貸の集合住宅」(10.0%)とする回答が続く。日

本では「あなた又はあなたの家族が所有する一戸建て住宅」(78.4%)、「あなた又はあなたの家族が所有する一般の集合住宅」(8.0%)、「公共団体や民間非営利団体の賃貸の集合住宅」(5.8%)の順であった。

(2)入居時期(Q34)

「あなたが現在のお住まいに入居したのは、いつですか。入居した住宅が建て替えられた場合には、建て替え以前の入居時期をお答えください。(は1つだけ)」という問いに対し、スウェーデンの回答者では「1990年代」という回答が 23.0%で最も多く、「1970年代」(19.4%、日本19.8%)、「2005~2009年」(17.2%)と続く。

日本では「1970 年代」(19.8%)、「1980 年代」(19.6%)、「1949 年以前」(13.4%)の順であった。日本では20 年以上居住している割合が71.7%であるが、スウェーデンでは45.3%である。スウェーデンでは子供が独立して家族の人数が少なくなるとより小さな住居に引っ越しをすることが多い。そのような居住習慣が結果に反映されているかも知れない。

(3)住宅の問題点(Q35)

「あなたは、現在お住まいの住宅にどのような問題を感じていますか。(はいくつでも)」 (Q35) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「何も問題を感じていない」が 76.3% で最も多く、「家賃、税金、住宅維持費など住宅に関する経済的負担が重い」(5.2%)、「住宅の構造(段差や階段など)や造りが高齢者には使いにくい」(5.2%)とする回答が続く。

住宅	の問題点(Q35)	
順位	スウェーデン	日本
1位	何も問題を感じていない(76.3%)	何も問題を感じていない(55.5%)
2位	住宅の構造(段差や階段等)や 造りが高齢者には使いにくい (5.2%)	住まいが古〈なりいたんでいる (18.5%)
3位	家賃、税金、住宅維持費など住宅に関する経済的負担が重い (5.2%)	住宅の構造(段差や階段等)や 造りが高齢者には使いにくい (12.3%)

他の調査対象国との比較では、「何も問題と感じていない」とする回答が、スウェーデンでは76.3%で最も多い(ドイツ67.9%、アメリカ58.3%、日本

55.5%、韓国 54.2%)。日本の回答では、「何も問題を感じていない」(55.5%)、「住まいが古くなりいたんでいる」(18.5%)、「住宅の構造(段差や階段等)や造りが高齢者には使いにくい」(12.3%)の順であった。

(4)住宅の総合満足度(Q36)

「あなたは、現在お住まいの住宅を総合的にみてどう思いますか。(は1つだけ)」(Q36)

住宅	の総合満足度(Q36)	
順位	スウェーデン	日本
1位	満足している(84.0%)	まあ満足している(49.0%)
2位	まあ満足している(14.4%)	満足している(33.3%)
3位	多少不満がある(1.5%)	多少不満がある(15.4%)

という問いに対し、スウェーデンの回答者では「満足している」とする回答が 84.0%で最も多く、一方、不満については「多少不

満がある」(1.5%)、「非常に不満がある」(0.1%)で回答はほとんどみられなかった。スウェーデンでは「満足している」「まあ満足している」を合わせると、98.4%の回答者が現在の住宅に満足しているという結果であった。日本では「まあ満足している」(49.0%)、「満足している」(33.3%)、「多少不満がある」(15.4%)の順であった。

(5)地域の問題点(Q37)

「あなたがお住まいの地域では、どのような問題を感じていますか。(はいくつでも)」 (Q37) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「何も問題を感じていない」とする 回答が 71.1%で最も多く、「日常の買い物に不便である」(9.5%)、「バス、電車などの公共 交通機関が整備されていない」(6.5%)という回答が続く。

他の調査対象国との比較では、「何も問題を感じていない」とする回答は、スウェーデンは 71.1%で最も多くなっている(韓国 68.8%、アメリカ 59.9%、ドイツ 58.0%、日本 55.5%)。またいずれの問題点に対しても回答は1割未満であり、スウェーデンの回答者は 地域に問題を感じていないという結果であった。スウェーデンの場合、居住区の都市計画 がしっかりしており、医療機関、商店など日常生活に必要な場所へのアクセスが確保されていることが結果に反映されているかもしれない。

日本の回答者は、問題点として「日常の買い物に不便」(14.9%)、「公共交通機関が整備されていない」(10.8%)、「医院や病院への通院に不便」(9.6%)などを順にあげている。

(6)地域の環境に対する満足度(Q38)

「あなたが、お住まいの地域の環境を総合的にみてどう思いますか。(は1つだけ)」

地域	の環境に対する満足度(Q38)	
順位	スウェーデン	日本
1位	満足している(86.8%)	満足している(35.0%)
2位	まあ満足している(12.3%)	まあ満足している(54.8%)
3位	多少不満がある(0.8%)	多少不満がある(9.5%)

(Q38) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「満足している」という回答が 86.8%で最も多く、次に「まあ満足して

いる」が 12.3%で続く。「多少不満がある」(0.8%)と「非常に不満がある」(0.1%)を合

わせても0.9%であり、地域の環境に不満を持つ回答者はほとんど見られない。

「満足している」とする回答は、アメリカ(75.2%)とドイツでも高い結果がみられたが、 日本では35.0%、韓国では29.6%と満足度が相対的に低い。

(7)身体機能が低下した場合の住宅の住みやすさ(Q39)

「もし、あなたの身体機能が低下して、車いすや介助者が必要になった場合、あなたの住宅は住みやすいですか。現在、車いすや介助者を必要としている場合は、現状をお答え下さい。(は1つだけ)」(Q39)という問いに対し、スウェーデンの回答者では「まあ住みやすい」(26.5%)、「多少問題がある」(26.5%)とする回答が最も多く、次に「住みやすい」(25.0%)とする回答が続く。日本では「多少問題がある」(47.2%)、「まあ住みやすい」(20.3%)、「住みやすい」(16.1%)の順であった。

「住みやすい」と「まあ住みやすい」を合わせた回答数は、アメリカが 63.8%で最も多く、次いでスウェーデン 51.5%、韓国 50.7%、ドイツ 47.6%、日本 36.4%となっている。

(8)身体機能が低下した場合の住宅(Q40)

「もし、あなたの身体の機能が低下して、車いすや介助者が必要になった場合、自宅に 留まりたいですか。それともどこかへ引っ越したいですか。現在、車いすや介助者を必要 としている場合は、ご希望をお答えください。(は1つだけ)」(Q40) という問いに対し、

身体	身体機能が低下した場合の住宅(Q40)	
順位	スウェーデン	日本
1位	改築の上、自宅に留まりたい (47.5%)	現在のまま自宅に留まりたい (46.2%)
2位	高齢者用住宅へ引っ越したい (22.1%)	改築の上、自宅に留まりたい (20.2%)
3位	現在のまま自宅に留まりたい (18.5%)	老人ホームへ引っ越したい (13.9%)

スウェーデンの回答者では、「改築の上、自宅に留まりたい」という回答が47.5%で最も多く、次に「高齢者用住宅へ引っ越したい」(22.1%)、「現在のまま自

宅に留まりたい」(18.5%)という回答が続く。スウェーデン、日本の回答者は共に自宅での生活を希望しているが、移動先についてはスウェーデンでは「高齢者用住宅」、日本では「老人ホーム」となっている。

(9)外出する時の利用手段(Q41)

「あなたは、ふだん外出する時に何を利用しますか。(はいくつでも)」(Q41) という 問いに対し、スウェーデンの回答者では「自分で運転する自動車」が 70.9%で最も多く、 次に「徒歩」(62.8%)、「自転車」(37.8%)とする回答が続く。日本では「自分で運転する自動車」(46.7%)、「徒歩」(46.4%)、「自転車」(30.7%)の順であった。

(10)外出する時に気になる点(Q42)

「あなたは、外出するにあたって不便に思ったり、気になったりすることがありますか。 (はいくつでも)」(Q42) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「特に不便ではない」とする回答が 51.7%で最も多く、次に「道路に段差があったり、道路が狭い、滑りやすい」(19.6%)、「トイレが少ない、汚い、使いづらい」(15.3%)とする回答が続く。日本では、「特に不便ではない」(64.7%)、「夜間の道路照明が暗い、街路灯が少ない」(11.5%)、「道路に段差があったり、道路が狭い、滑りやすい」(11.2%)の順であった。

7. 社会とのかかわり、生きがい

(1)人(同居の家族、ホームヘルパー等を含む)と話をする頻度(Q43a)

「あなたは、ふだんどの程度、人(同居の家族、ホームヘルパー等を含む)と話をしますか。電話や電子メール、ファックス等も含めてお答えください。(は1つだけ)」(Q43a)という問いに対し、スウェーデンの回答者では「ほとんど毎日」という回答が 86.0%で最も多く、次に「週に2、3回」(5.4%)、「週に4、5回」(5.0%)という回答が続く。

日本の回答では、「ほとんど毎日」(88.3%)、「週に4、5回」(3.7%)、「週に2、3回」(3.6%)の順である。(回答者中の単身者の割合はスウェーデン34.1%、日本12.8%である。)

(2)人(同居の家族、ホームヘルパー等を含む)と直接会って話をする頻度(Q43b)

「そのうち、人(同居の家族、ホームヘルパー等を含む)と直接会って話をするのは、 どの程度ですか。(は1つだけ)」(「人と話をする」と回答した人のみ)という問いに対 し、スウェーデンの回答者では「ほとんど毎日」という回答が87.8%で最も多く、次に「週 に2、3回」(5.5%、日本4.4%)、「週に4、5回」(5.1%、日本3.3%)という回答が続く。

日本の回答は「ほとんど毎日」(88.4%)、「週2、3回」(4.4%)、「週に4、5回」(3.3%)の順である。

(3)同居の家族以外に頼れる人(Q44)

「病気の時や、一人では出来ない日常生活に必要な作業(電球の交換や庭の手入れなど) が必要な時、同居の家族以外に頼れる人がいますか。あてはまるものをすべてお答えくだ

同居	の家族以外に頼れる人(Q44)	
順位	スウェーデン	日本
1位	別居の家族・親族(58.6%)	別居の家族・親族(60.9%)
2位	友人(34.9%)	いない(20.3%)
3位	近所の人(26.5%)	近所の人(18.5%)

さい。(はいくつでも)」(Q44) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「別居の家族・ 親族」とする回答が 58.6%で最

も多く、次に「友人」(34.9%)、「近所の人」(26.5%)という回答が続く。日本の回答は、「別居の家族・親族」(60.9%)、「頼れる人がいない」(20.3%)、「近所の人」(18.5%)の順であった。「頼れる人がいない」とするスウェーデンの回答は9.7%で、日本の回答者の半分以下であった。「別居の家族・親族」が第1位という点は両国で同じであるが、スウェーデンでは「友人」「近所の人」に頼ることができるという回答が多い。

(4)近所の人たちとの交流(Q45)

「あなたは、週に何回くらい、近所の人たちと話をしますか。単なるあいさつは除いて下さい。(は1つだけ)」(Q45)という問いに対し、スウェーデンの回答者では「ほとんど毎日」という回答が33.1%で最も多く、次に「週に2、3回」(20.9%)、「ほとんどない」(17.6%)という回答に続く。日本の回答は「ほとんどない」(31.6%)、「ほとんど毎日」(22.7%)、「週に2、3回」(19.9%)の順であった。日本の「ほとんどない」という回答は調査実施国中で最も多い結果となっている。

(5)近所の人たちとの付き合い方(Q46)

「近所の人とは、どのようなお付き合いをなさっていますか(はいくつでも)」(Q46) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「外でちょっと立ち話をする程度」とする回答が86.4%で最も多く、次に「お茶や食事を一緒にする」(44.4%)、「相談ごとがあった時、相談したり、相談されたりする」(32.9%)とする回答が続く。日本の回答では「物をあげた

近所	の人たちとの付き合い方(Q46)	
順位	スウェーデン	日本
1位	外でちょっと立ち話をする程度 (86.4%)	外でちょっと立ち話をする程度 (70.7%)
2位	お余や良事を一緒にする(44.4%)	物をあげたりもらったりする (51.6%)
3位	相談事があった時、相談した り、相談されたりする(32.9%)	お茶や食事を一緒にする(29.3%)

りもらったりする」が 51.6%と 多く、「お茶や食事をする」は 29.3%でスウェーデンの回答に 比べ少ない。近所付き合いの方

の違いがみられる。

(6)親しい友人の有無(Q47)

「あなたは、家族以外の人で相談し合ったり、世話をし合ったりする親しい友人がいますか。次の中から、あてはまるものを1つだけあげて下さい。(は1つだけ)」(Q47) という問いに対し、スウェーデンの回答者では性別にかかわらず「友人がいる」とする回答が88.7%(日本73.7%)で、「いずれもいない」とする回答が11.4%(日本26.2%)であった。スウェーデンでは対象国の中でも「いずれもいない」という回答が最も少なかったが、日本は回答者ではスウェーデンの2倍以上の人が「いずれもいない」と回答している。

友人の内訳をみると、「同性と異性の友人がいる」という回答が 57.6%(日本 19.5%)「同性の友人がいる」という回答が 28.4%(日本 53.2%)「異性の友人がいる」という回答が 2.7%(日本 1.0%)であった。スウェーデンの回答者が「同性と異性の友人がいる」のに対し、日本の回答者は「同性の友人」に偏る傾向が見られる。

(7) ボランティア活動への参加状況(Q48)

「あなたは福祉や環境を改善することなどを目的としたボランティア活動その他の社会活動を行っていますか。次の中からお答えください(はいくつでも)」(Q48) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「全く参加したことがない」が 28.3%で最も多く、次に「以前には参加していたが、今は参加していない」(17.7%)、「地域行事、まちづくり活動」(16.4%)、「宗教・政治活動」(12.6%)という回答が続く。

ボラ	ンティア活動への参加状況(Q48)	
順位	スウェーデン	日本
1位	全〈参加したことがない(28.3%)	全〈参加したことがない(51.7%)
2位	以前には参加していたが、今は 参加していない(17.7%)	以前には参加していたが、今は 参加していない(17.0%)
3位	地域行事、まちづくり活動 (16.4%)	近隣の公園や通りの清掃等の 美化運動(14.2%)
4位	宗教·政治活動(12.6%)	地域行事・まちづくり(13.3%)

日本の回答者でも「全く参加 したことがない」が最も多いが、 その数は 51.7%でスウェーデン に比べて 2 倍近くの数になって いる。

(8) ボランティア活動に参加しない理由(Q49)

「あなたがこのような社会活動に現在参加していない理由をお答えください。(はいく つでも)」(Q49) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「関心がない」という回答

ボランティア活動に参加しない理由(Q49)

順位	スウェーデン	日本
1位	関心がない(28.0%)	時間的・精神的ゆとりがない (32.2%)
2位	11111に 7911にした とかめるにん8%)	健康上の理由、体力に自信が ない(31.5%)
3位	時間的・精神的ゆとりがない (19.6%)	関心がない(15.9%)

が 28.0%で最も多く、次に「他にやりたいことがある」(27.8%)、「時間的・精神的ゆとりがない」(19.6%)とする回答が続く。スウェーデンの「他にやりたいこと

がある」という回答は、他の調査対象国に比べても多い(日本 10.3%、アメリカ 16.1%、韓国 1.8%、ドイツ 19.5%)。日本の回答は「時間的・精神的ゆとりがない」(32.2%)、「健康上の理由、体力に自信がない」(31.5%)、「関心がない」(15.9%)の順である。

(9)学習活動への参加状況(Q50)

「あなたは、次のような学習活動に参加していますか。(はいくつでも)」(Q50) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「参加していない」という回答が 64.4%で最も多く、次に「地方自治体など公的機関や大学などが開催する公開講座や学習活動」(17.2%)、「カルチャーセンターなどの民間団体が行う学習活動」(13.0%)、「地方自治体など公的機関が高齢者専用に設けている高齢者学級や老人大学」(8.0%)と続く。

ボランティア活動と同様に、学習活動についても、スウェーデンでは「参加していない」 という回答が、調査対象国の中で最も少なかった(日本78.1%、アメリカ70.9%、韓国89.9%、 ドイツ79.5%)。

日本の回答は「参加していない」(78.1%)、「カルチャーセンターなどの民間団体が行う 学習活動」(12.9%)、「テレビ、ラジオ、インターネット、郵便など通信手段を用いて自宅 にいながらできる学習」(4.0%)の順であった。

(10)学習活動に参加しない理由(Q51)

「あなたはこのような学習活動に現在参加していない理由をお答えください。(はいく つでも)」(Q51)という問いに対し、スウェーデンの回答者では「他にやりたいことがある 」

学習	活動に参加しない理由(Q51)	
順位	スウェーデン	日本
1位	他にやりたいことがある(29.9%)	時間的・精神的ゆとりがない (31.0%)
2位	関心がない(26.8%)	関心がない(25.9%)
3位	時間的・精神的ゆとりがない (20.8%)	健康上の理由、体力に自信が ない(24.6%)

という回答が 29.9%で最も多く、 次に「関心がない」(26.8%)、「時間的・精神的にゆとりがない」 (20.8%)という回答が続く。スウ

ェーデンでは「他にやりたいことがある」という回答が、調査対象国の中で最も多かった (日本 11.6%、アメリカ 22.1%、韓国 1.6%、ドイツ 19.0%)。日本の回答では、「時間的・精神的ゆとりがない」(31.0%)、「関心がない」(25.9%)、「健康上の理由、体力に自信がない」(24.6%)の順であった。

(11)情報機器の利用状況(Q52)

「あなたは、次のような情報機器を使って、家族や友人と連絡をとったり、情報を探したりしますか。あてはまるものを、すべてあげて下さい。(はいくつでも)」(Q52)という問いに対し、スウェーデンの回答者では「携帯電話や PHS で家族・友人などと連絡をとる」という回答が 77.7%で最も多く、次に「コンピュータの電子メールで家族・友人などと連絡をとる」(49.9%)、「インターネットで情報を集めたり、ショッピングをする」(45.4%)

.±=±	144 B & TI B 115 B (050)	
情報	機器の利用状況(Q52)	
順位	スウェーデン	日本
1位	携帯電話やPHSで家族·友人な	携帯電話やPHSで家族·友人な
1 134	どと連絡をとる(77.7%)	どと連絡をとる(58.6%)
2位	コンピュータの電子メールで家	いずれも使わない(35.6%)
2 137	族・友人等と連絡をとる(49.9%)	いり 1 いひ 戻1) ない ((33.0%)
3位	インターネットで情報を集めた	インターネットで情報を集めた
3111	り、ショッピングをする(45.4%)	り、ショッピングをする(15.6%)
4位	いずわも体われ(42.7%)	コンピュータの電子メールで家
4711	いずれも使わない(13.7%)	族・友人等と連絡をとる(15.3%)

と続く。「いずれも使わない」と する回答は 13.7%であり、スウェーデンの回答は他の調査対象 国に比べて最も少なかった。

日本の回答では「携帯電話や PHS で家族・友人などと連絡を

とる」(58.6%)、「いずれも使わない」(35.6%)、「インターネットで情報を集めたり、ショッピングをする」(15.6%)の順であった。

2000 年調査の結果に比べ、過去 10 年間でスウェーデンでは情報機器の「いずれも使わない」人が 55.1%から 13.7%に、日本でも 78.9%から 35.6%に減少しており、両国において高齢者の情報機器の利用が増加している。

(12)情報機器を利用しない理由(Q53)

「では、情報機器をお使いにならないのはなぜですか。(はいくつでも)」(Q53) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「必要性を感じないから」という回答が 57.6% で最も多く、次に「使い方がわからないので、面倒」(19.4%)、「文字が見えにくいから」(6.3%)という回答が続く。日本の回答では「必要性を感じないから」(74.6%)、「使い方がわからないので、面倒」(26.8%)、「お金がかかるから」(8.3%)の順であった。

8.不安、関心、満足度

(1) 悩みやストレスの有無(Q54)

「あなたは、現在、日常生活で悩みやストレスなどがありますか。(は 1 つだけ)」(Q54) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「まったくない」とする回答が 64.7%(日本 48.4%)で最も多く、次に「少しはある」(30.6%)、「大いにある」(4.7%)という回答が続く。「まったくない」という回答は、調査対象国中でスウェーデンが最も多かった。日本は「まったくない」(48.4%)、「少しはある」(45.2%)、「大いにある」(6.3%)の順であった。

(2) 悩みやストレスの内容(Q55)

「それはどのような点ですか。(はいくつでも)」(Q55) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「同居している家族の健康や病気について」という回答が 39.8%と最も多く、次に「自分の健康や病気について」(36.0%)、「子どもや孫の将来について」(35.2%)という回答が続く。日本は「自分の健康や病気について」(41.0%)、「子供や孫の将来について」(25.1%)、「同居している家族の健康や病気について」(18.5%)の順であった。

(3)生きがいを感じる時(Q56)

生きがいを感じる時(Q56)

	工 2 7 7 1 2 2 2 2 2 7 7 (
順位	スウェーデン	日本	
1111/		子供や孫など家族との団らん の時(48.4%)	
2位	友人や知人との食事、雑談を している時(66.9%)	趣味に熱中している時(39.4%)	
3位	夫婦団らんの時(60.5%)	友人や知人との食事、雑談を している時(35.7%)	

「あなたが生きがい(生きていることの喜びや楽しみを実感すること)を感じるのはどのような時ですか。次の中から、いくつでもあげて下さい。(はい

くつでも)」(Q56) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「子供や孫など家族との団らんの時」とする回答が 78.7%で最も多く、次に「友人や知人と食事、雑談をしている時」(66.9%)、「夫婦団らんの時」(60.5%)という回答が続く。日本の回答では、「子供や孫

など家族との団らん」(48.4%)、「趣味に熱中している時」(39.4%)、「友人や知人との食事、 雑談をしている時」(35.7%)の順であった。日本との比較では、スウェーデンは全体的にす べての項目において満足度が高い。また日本では「夫婦団らん」(29.3%)という回答がスウェーデンの回答の半分以下であった。

(4)生活の総合満足度(Q57)

「総合的にみて、あなたは現在の生活に満足していますか。(は1つ)」(Q57) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「満足している」とする回答が69.9%で最も多く、

生活の総合満足度(Q57)

順位	スウェーデン	日本
1位	満足している(69.9%)	満足している(56.4%)
2位	まあ満足している(29.3%)	まあ満足している(36.3%)
3位	やや不満である(0.6%)	やや不満である(6.1%)
4位	不満である(0.2%)	不満である(1.2%)

次に「まあ満足している」とす る回答が 29.3%で続く。日本の 回答者では「満足している」 (56.4%)、「まあ満足している」

(36.3%)の順である。スウェーデンでは「やや不満である」(0.6%)、「不満である」(0.2%) の回答を合わせても、現在の生活に不満を持つ回答者は 0.8%でほとんどいないという結果 であった。

9.政策に対する態度

(1)若い世代と高齢者のどちらを重視するか(Q58)

高齢者に対する重要な政策や支援(Q59)		
順位	スウェーデン	日本
1位	公的な年金制度(76.8%)	介護や福祉サービス(60.9%)
2位	介護や福祉サービス(72.6%)	医療サービス(59.5%)
3位	医療サービス(69.7%)	公的な年金制度(57.6%)
4位	高齢者向け住宅(66.8%)	高齢者に配慮した街づくり (25.5%)
5位	事故や犯罪防止(49.0%)	働〈場の確保(24.3%)

「今後、政府の政策全般において、高齢者や若い世代に対する対応をどのようにしていくべきだと考えますか。(は1つだけ)」(Q58)という問いに対し、スウェーデンの回答者では「高

齢者をもっと重視すべき」とする回答が 48.7% (日本 49.0%) で最も多く、次に「若い世代をもっと重視すべき」(23.8%、日本 28.4%)、「現状のままでよい」(18.8%、日本 14.5%) とする回答が続く。日本の回答では、「高齢者をもっと重視すべき」(49.0%)、「若い世代をもっと重視すべき」(28.4%)、「現状のままでよい」(14.5%)の順であった。

(2)高齢者に対する重要な政策や支援(Q59)

「あなたが大切だと思う、高齢者に対する政策や支援はどれですか。この中からあてはまるものをすべてお答えください。(はいくつでも)」(Q59)という問いに対し、スウェーデンの回答者では「公的な年金制度」とする回答が76.8%で最も多く、次に「介護や福祉サービス」(72.6%)、「医療サービス」(69.7%)とする回答が続く。日本では「介護や福祉サービス」(60.9%)、「医療サービス」(59.5%)、公的な年金制度(57.6%)の順であった。4位以下の回答項目には生活環境の整備に関する項目が続くが、スウェーデンではこれらについても関心が高いが、日本の高齢者の関心度は相対的に低い。

(3)社会保障制度の負担のあり方(Q60)

「社会保障制度の水準や負担の在り方について、あなたはどの考えに近いですか(は 1 つだけ)」(Q60) という問いに対し、スウェーデンの回答者では「たとえ、今後、税や保 険料の負担を増やすことになっても、社会保障制度の現在の水準は向上させるべき」とす る回答が 48.9%で最も多く、次に「たとえ、今後、税や保険料の負担を増やすことになっても、社会保障制度の現在の水準は維持すべき」(37.9%)とする回答が続く。

社会	保障制度の負担のあり方(Q60)	
順位	スウェーデン	日本
1位	たとえ、今後、税や保険料の負担を増やすことになっても、社会保障制度の現在の水準は向上させるべき(48.9%)	たとえ、今後、税や保険料の負担を増やすことになっても、社会保障制度の現在の水準はできるだけ維持すべき(38.8%)
2位	たとえ、今後、税や保険料の負担を増やすことになっても、社会保障制度の現在の水準はできるだけ維持すべき(37.9%)	たとえ、今後、税や保険料の負担を増やすことになっても、社会保障制度の現在の水準は向上させるべき(29.2%)
3位	できるだけ、今後、税や保険料の負担を増やさないようにするためには社会保障制度の現在の水準が下がってもやむを得ない(5.1%)	できるだけ、今後、税や保険料の負担を増やさないようにするためには社会保障制度の現在の水準が下がってもやむを得ない(17.5%)

「できるだけ、今後、税や保険料の負担を増やさないようにするためには社会保障制度の現在の水準が下がってもやむをえない」とする回答は、スウェーデンではわずか 5.1%であるのに対し、日本では 17.5%の回答があった。

(4)老後の生活費に対する考え方(Q61)

老後	での生活費に対する考え方(Q61)	
順位	スウェーデン	日本
1位	老後の生活費は、社会保障な ど公的な援助によってまかなわ れるべきである(61.8%)	老後の生活費は、働けるうちに 準備し、家族や公的な援助には 頼らないようにすべきである (47.8%)
2位	老後の生活費は、働けるうちに 準備し、家族や公的な援助には 頼らないようにすべきである (27.8%)	老後の生活費は、社会保障な ど公的な援助によってまかなわ れるべきである(42.9%)
3位	老後の生活費は、家族が面倒 をみるべきである(1.7%)	老後の生活費は、家族が面倒 をみるべきである(7.2%)

「「老後の生活」における生活費について、あなたは、主にどのようにまかなわれるべきだと思いますか。あなたのお考えに近いものを1つだけあげて下さい。(は1つだけ)」(Q61) と

いう問いに対し、スウェーデンの回答者では「老後の生活費は、社会保障など公的な援助によってまかなわれるべきである」とする回答が 61.8%で最も多く、次に「老後の生活費は、働けるうちに準備し、家族や公的な援助には頼らないようにすべきである」とする回答が 27.8%で続く。「老後の生活費は、家族が面倒をみるべきである」とする回答は 1.7%であった。これに対し、日本では「老後の生活費は、働けるうちに準備し、家族や公的な援助には頼らないようにすべきである」とする回答が 47.8%で最も多く、「老後の生活費は、家族が面倒をみるべきである」とする回答が 7.2%であった。社会保障制度への期待が高いスウェーデンと、公的制度への期待が持ちにくい日本との意識の差がみられる。